

日本の伝統織物である和服地の有効利用について

西垣麻衣子（学生コース）

1. はじめに

和服は日本の伝統織物である。しかし近年は洋装化が進み、作り手の高齢化、後継者不足等、和服の生産は低迷している。和服は平面の布から成り、着られなくなっても最後まで余す所なく使う事が出来る。環境に配慮した和服の良さを知ってもらう事が必要だが、和服を着るには技術が必要で難しい。まずは、日常生活に取り込みやすい小物として和服素材に興味を持ってもらい、和服の良さを理解し高級品で品質の良い和服を日常生活でも着用して欲しい。本研究では、和服を見直していく契機として日本の伝統織物である和服地の有効利用について検討した。

2. 方法

1)実態調査（西陣織、友禅染）、文献調査：和服地の有効利用の方法を検討するにあたり京都への見学、文献調査を行った。見学は京都の西陣織成館、友禅染染色工場、NPO 法人きものを着る習慣をつくる協議会の「結 ART 展」の見学である。和服が作られていく過程や職人さんの話を聞き和服業界の現状、取り組み等を知る事が出来た。文献調査では市販の書籍、高等学校家庭総合教科書から和服地がどのような物に作り直されているか調査した。

2)リフォーム作品の評価：文献調査に基づき、収集した振袖の見本布を用いて9作品を製作した。見本布は友禅染染色工場の見学時に頂いた物である。試料の大きさは幅40cm長さ145cmである。調査内容は9作品に対し、欲しい・どちらとも言えない・欲しくない、リフォームする・どちらとも言えない・リフォームしない、それぞれに理由と最後に自由記述の欄も設けた。2012年12月滋賀大学教育学部学生37名（男性12名、女性25名）を対象に聞き取り調査を行った。

3)JICA 研修生：振袖の見本布で風呂敷を製作し、JICA 海外研修生の方にプレゼントした。「どのように使いますか。」と尋ねてみた所「仕事に行く時に本を包む。」「机に敷く。」「壁に掛ける。」という答えであった。振袖の見本布を用いたので、日本的な模様や色彩が美しく、風呂敷として使うより、飾っておく、平面の布として掛けておくという答えの方が多かった。

3. まとめ

廃棄する和服地から日常生活に取り込みやすい9作品を製作した。男女共に欲しい、リフォームしたい作品は小物類で製作時間が短く(90分以内)簡単に出来る物、私服と合い日常生活でさりげなく使える物が好まれた(表1)。また自分の為に作るのではなく、プレゼント用に作るという人もいた。欲しくない、リフォームしたくない作品はベストやスカート等製作時間が長く作るのが難しい物、私服と合わない物であった。今回は文献調査と和服の中でも、美しくインパクトがある物として振袖の見本布を用いて製作したが、どの作品も派手・使いにくい等意見があった。切らずに壁掛け、テーブルクロス、タペストリー等として使いたいとの意見もあった。今回は振袖の見本布だから加工が可能であったが、祖母や母、自分の振袖を切る人はいないと思う。和服の中でも振袖以外の浴衣や小紋等の和服地を用いての作品の評価が今後の課題となった。また風呂敷を製作し JICA 海外研修生の方に和服地の魅力を知ってもらえる良い機会となった。これをきっかけに多くの人達に和服に対する興味を持って頂けたらと思う。

表 1. 作品評価結果

	1位	2位	3位		1位	2位	3位
欲しい	コサージュ 28名	風呂敷等 22名	あずま袋 21名	リフォーム する	コサージュ 22名	風呂敷 16名	あずま袋等 15名
欲しくない	スカート 21名	ベスト 20名	ストール 18名	リフォーム しない	ベスト 24名	スカート 23名	エプロン 17名